令和４年度 第２回大磯町総合教育会議　議事録

１．日　時　　令和５年１月27日（金）
　　開会時間　午前10時00分
　　閉会時間　午前11時30分

２．場　所　　大磯町役場　４階第１会議室

３．構成員　　池　田　東一郎　町長
　　熊　澤　　久　　教育長
　　濱　谷　海　八　教育長職務代理
　　曽　田　成　則　教育委員
　　トーリー 二 葉　教育委員
　　末　續　慎　吾　教育委員

４．事務局　　齋　藤　永　悟　政策総務部参事（統括秘書兼政策・デジタル化推進担当）
　　小　林　英　文　政策総務部政策課長
　　秋　本　篤　史　政策総務部政策課副課長兼政策係長
　　山　口　竣　矢　政策総務部政策課主事
　　大　槻　直　行　教育部長
　　波多野　昭　雄　教育部学校教育課長
　　辻　丸　聖　順　教育部学校教育課主幹（コミュニティ・スクール推進担当）
　　須　田　幸　年　教育部学校教育課主幹（デジタル教育推進担当）
　　添　田　　健　　教育部学校教育課主幹（人事担当）

５．傍聴人　５人

６．議　題
　協議事項
　（１）「大磯町教育大綱の改定について」

７．会議概要

【開会】

政策課長）　ただ今から、令和４年度第２回大磯町総合教育会議を始めさせていただきます。

本日の司会を務めさせていただきます、政策総務部政策課の小林でございます。よろしくお願いいたします。

総合教育会議は、原則、公開での開催となります。

それでは始めに、池田町長からご挨拶申し上げます。池田町長、よろしくお願いいたします。

【池田町長挨拶】

池田町長）　皆さん、おはようございます。

町長の池田東一郎でございます。本日は、初めての総合教育会議ということで、新米でございますのでいろいろとご指導いただければと思います。本日はお忙しい中、令和４年度の第２回「大磯町総合教育会議」にご出席いただき、ありがとうございます。

本日の総合教育会議は、「大磯町教育大綱の改定について」です。

私は令和４年11月27日の町長選挙で、「大磯をもっと前へ」という政策集を掲げ、もっと安心して暮らせる大磯を作り、人口減少に歯止めをかけていく考えです。政策の柱を６つ立てており、その中でも「子育て、教育関係の向上」という大きな柱を立て、人口減少対策の一番大きな役割としていきたいと考えています。そうした関係から、私の政策のいわば１丁目１番地が「子育て、教育」ということで考えていますので、その思いを皆様にお伝えしながら、ご意見やお考えを伺えればと存じます。

できるだけ効率よく、有意義な会議となりますよう、ご協力くださいますよう、お願い申し上げます。本日はありがとうございます。

政策課長）　池田町長、ありがとうございました。

それでは、議事に移らせていただきます。議事の進行は、大磯町総合教育会議要綱第４条第１項の規定により「町長が議長となる」とされていますので、議事の進行につきましては、池田町長にお願いしたいと思います。

池田町長、よろしくお願いいたします。

【協議事項（１）「大磯町教育大綱の改定について」】

池田町長）　それでは、本日の協議事項であります、議題（１）「大磯町教育大綱の改定について」という議題に移らせていただきます。この度の改定において、私の今の思いや考えをご説明させていただきます。「大磯町教育大綱」と書かれている資料をご覧ください。

本日、この総合教育会議に臨むにあたりまして、先日の日曜日に町立学校のPTA役員の方に集まっていただき、現在の教育大綱について感想を伺う会を行いました。私の政策集にも掲げていますが、「子ども教育会議による教育内容の改編検討」というものがあり、様々

なテーマで実施しようと思っています。そこで、伺った意見として、「基本理念に『いのち』、『こころ』とあるが、抽象的で保護者的には意味がよくつかめない」という意見があったり、「全体として、子どもをどうする、という内容を書いているが、保護者や地域のことも考えて入れ込めないか」という意見もありました。また、「もう少し現代的な、どちらかというと、大人より子どものほうが新しいこともやってしまうところがあるので、子どもが大綱より先に新しいことをやってしまうのではなく、大綱も子どもの目線で新しいことをどんどん取り込んでいこう、という雰囲気が伝わるものにしたい」というものもありました。それから、「町長が変わったので、教育大綱を町長の方針で見直してほしい」という意見もいただいています。

今日お配りした素案も、私なりに意見交換の結果を参考にしながら、素案としてまとめたものですが、「『地球的規模』や『グローバル』、『だれ一人取り残さない』といったSDGｓの精神や、新しい時代を象徴するワードを教育大綱に盛り込んでほしい」といった意見もありました。また、「持続可能な発展とか、循環型社会とか、環境問題がとても今世界的にも注目されていますので、そうした環境問題への取組みを象徴するワードを取り入れてほしい」といったのもありました。「現場の先生や、保護者、地域の方々が読んで、何をすればよいのか、を具体的に書いたほうがいいのではないか」という意見もありました。それから、「子育てや教育が、子どもだけではなく、先生や保護者、地域の方々の成長にもつながる、ということも書いてほしい」といった意見もございました。「子育てや教育に関わることによって、楽しいわくわくするような町にしていかないと、子育て世代を大磯に呼び込んでいくという方向には、ならない」という意見もありました。「先生が楽しくないと、子どもが楽しくならない」といったような意見もありました。

総じて言うと、いろんな方が「わくわく感」を持つような大綱にならないか、という意見がありましたので、それらを含めて、私なりにまとめたものがお配りしている素案です。

内容を読みますと、基本理念は「子育て・教育でみんながわくわくする町おおいそ」ということで考えています。

そして基本目標ですが、「地球規模の視野と持続可能な発展が求められる新しい時代に必要な、３つの力をはぐくむ子育て・教育を通じ、それに関わる全ての皆さんが楽しくわくわくする町づくりを進めます。」ということに仮に考えました。星は、今まで「知力」「体力」「共感力」だったのですが、「漢字２文字の熟語は少し堅い」といった意見もありましたが、それは残すとして、「まなび」「からだ」「こころ」としてみました。「まなび」は「人の可能性を広げる基盤となる資質や能力を、学校、保護者、地域が協力してはぐくみます。」、「からだ」は「新しい時代をしなやかに生きる原動力となる、心身の健康を学校、保護者、地域が協力してはぐくみます。」、「こころ」が「多様性を認め合い、ともに生きる豊かで温かい心を学校、保護者、地域が協力してはぐくみます。」ということを書いてみました。

次に基本方針ですが、「～美しい自然と由緒ある歴史・文化を大切に、循環型の社会を目指す大磯らしい子育て・教育を、誰一人取り残されることがないよう、保護者と学校そして地域が力を合わせて進め、こどもの成長をみんなで喜び合える町にします～」としてみ

ました。

項目は従前の項目を生かして、「(子育て) 安心してこどもを生み育てられるよう、子育てを地域全体で支え、こども、保護者、先生、地域の皆さんが笑顔で成長できる環境づくり」、それから、「(幼児教育) さまざまな体験活動を通じて、家庭や地域も一緒になって、『生きる力』の基礎を確立するとともに、それを喜び合える幼児教育」、そして「(学校教育) 家庭や地域とともにこどもにとって個別最適なまなびを追究し、確かな学力と健やかな体そして豊かな心を身につけるとともに、それを喜び合える学校教育」、としてみました。

それから、「(生涯学習)」と「(教育環境整備)」は、変わらずそのまま元のものを生かしてあり、「(生涯学習) 生涯にわたって、ともに学び、自らを高め、更に学びを地域に生かす生涯学習」、「(教育環境整備) 安全・安心・快適で様々な体験・活動を行うことができる教育環境の整備」とさせていただきました。

ご覧のように基本的な枠組みは従前のものを生かしながら、内容を現代的なものに改めたり、最近の時代を象徴する言葉を入れてみたり、工夫をしたものです。素案を私なりにまとめましたので、この後は教育委員の皆様、教育長からいろいろなご意見をいただければと存じますので、どうぞよろしくお願いします。

それでは濱谷教育長職務代理、いかがでしょうか。

濱谷教育長職務代理)　教育大綱の話ということで、前町長の２期にわたる教育大綱というものをもう一度確認させていただきました。前町長の時の教育大綱というものは、２期ともほとんど、変わっていないと読みとりました。前回の教育委員会定例会事務連絡調整会議の時に、教育部長から、「教育大綱が決まり、それをもとに、各学校のグランドデザインが作られていく」という話があり、その絡みで教育大綱というものをしっかり議論しないと４校の校長先生がなかなかグランドデザインを作れないということを聞きましたので、もう一度グランドデザインを読みました。

一つは、かながわ教育ビジョンというものがあり、かながわ教育ビジョンの持っている理念が掲げられています。かながわ教育ビジョンの基本理念は、「未来を拓く・創る・生きる人間力あふれるかながわの人づくり」というのがあります。その理念に基づいて、教育目標は、「たくましく生きる力」、「思いやる力」、「社会とかかわる力」、そこには「自己肯定感」という言葉が使われております。まさしく「心ふれあうしなやかなひとづくり」というものを、進めていかなければならないという話をされています。神奈川の教育ビジョンに基づいて、「かながわ人づくりコラボ」というものがありまして、「県内の大学」「県内の専門学校」あるいは「県内の公立、私立含めた多様にわたる組織」が集って、「どういう人づくりをしていかなければならないのか」、年１回県民を巻き込んだフォーラムが行われています。

町長のお話の中で、まず、PTAの方々から意見を聴取したという話を聞きました。まさしくお母さん、お父さんたちがおっしゃるように、「従来の教育大綱が少し抽象的なものになっているのでもっとわかりやすく、その枠組みを生かしながら、具現化してほしい」とい

うことになるのかな、と思います。私もわかりやすく、具現化をしていくのが良いと考えます。

少し話がずれますが、教育というものを考えると、町長のおっしゃる「少子化に歯止めをかける」ところは置いておいて、枠組みの「教育」というものを考えると、１つ目は「学力をつける」ということが「教育」ということであると考えます。２つ目は、「いかに生きるべきか」ということを、何年か経験を積んでいる先生たちが子どもたちと対峙して、「いかに生きるべきか」ということを教えていかなければならない。ベースになるのは「多様化」という社会なのかもしれない、あるいは「グローバル」という社会なのかもしれません。時代によった形でいかに生きるべきかを教える必要があると考えます。そして３つ目は、教育の本質というのは、「自己教育」にあると私は考えています。そして最後に、「生きる力を与える」というのが私の考える教育です。

とすると、教育目標の中に、町長が素案として書かれている従来の「知力」を「まなび」、「体力」を「からだ」、「共感力」を「こころ」と置き換えているわけです。この話を聞いていくと、保護者の方々が「時代に合ったものを網羅していってほしい」ということになると、思考力だ、判断力だ、表現力だ、主体力だ、主体性だ多様性だ協調性だと、これがキーワードとなってくる言葉になるわけです。それをこの中で見ていくと、「まなび」は人間の可能性を広げる基盤となる資質、能力ということになるわけです。

後ほど町長に「基盤となる資質」というのはどういうものか、ということをお聞きしたいところです。それから「能力」は、どのような能力があることによって、人間の可能性が広がっていくのか、その辺を聞きたいと思います。ですが、この言葉を学校、保護者、地域が協力して育むこと、これが大事なことになろうと思います。「からだ」いわゆる時代に合わせしなやかに生きる原動力になる、心身の健康、これはその通りだと思います。これも学校、保護者、地域が協力してはぐくむこと。「こころ」多様性を認めあう、共に生きる、豊かで温かい心、これもその通りだと思っています。これも学校、保護者、地域が協力して育んでいく、まさにこれが大磯町が進めていくであろう、コミュニティ・スクールの柱になっているのであろうと思います。ですから、この部分で、学校の先生方は、コミュニティ・スクールのフレームである、と理解されていくのかなと思いました。それに基づいて基本方針が、子育て、幼児教育、学校教育、生涯学習、教育環境整備、ということになります。

もう一点町長に確認したいことは、基本方針の学校教育のところに、こう書かれていました。「家庭や地域とともに子どもにとって個別最適な学び」とありますが、「個別最適な学び」とは町長はどうお考えになっているのか、というところをお伺いできればと思います。このあたりが、話を聞きながら議論をしていくと、まさしく「わくわくする教育」というものが見えてくるのかな、ということを、話を聞いて読み取った、というところです。少し抽象的になりましたが、以上です。

池田町長）　ありがとうございました。一度、委員の皆様からご意見をいただきたいと思います

ので、続けて曽田委員お願いします。

曽田教育委員）　実は、2020年だったと思うのですが、画面を見ながらしゃべるということになって、コロナ禍が始まり、３年間難しい状況にずっとありました。この中で社会が大きく変わったところで、学校教育で言いますと、子どもたちの教育がリモートになりました。

それが今まで考えてもいなかった状態になって、先生方が直接会って話をする状態から、社会が大きく変わっていったと思います。それが良いか悪いかは、まだ状況が経過中なので私にはわかりませんが、大きな変化があったということで、それがどうなっていくか、大きな問題点になると思います。

先ほど町長がおっしゃった、町が人口減少の状態にあるということ、大磯町のような小さな町にとっては、子どもの減少と超高齢化社会が同居しており、この２つをどのように対策していくか、ということが大事であると感じます。ちょうど教育大綱素案に「こころ」と「からだ」がありますので、「こころ」についてお話しますが、こころの老化というものがあると思います。若い人にもこころの老化はあると思います。私はもう定年を迎えていますので、しっかりとこころの老化があると思いますが、そういったことも考えますと、若さや年齢ではなく、こころの老化ということを町が問題にしていけば、また違う意見の聞き方ができるのではないかと思っています。

「教育環境整備」というところで感じたことは、この町は大変環境もいいし、町がきれいです。それから静かな町だと思います。人々が親切であり、譲り合いの精神があるように感じます。いい条件をたくさんそろえておりますので、そういったことをどう育てていくのか、ということを感じております。

もう一つ、この町の大きな発展は、一時期ありました観光で、日本全体で海外から人を呼ぶ観光立国という言葉がありましたが、今はコロナ禍でそれが全くありません。大磯町も流れに乗って観光の町にしたい、ということもあったと思います。ところが、それに対してどういう具体的な話ができていくか、そういったところに手を入れながら、この町の良さをどう発展させていくかということを考えれば、うまくいくのではないかと考えます。

それらの内容をこの教育環境整備の中に入れていただいて、もっと言えば、この町の特産物が、役場の１階にもありますが、この町は特産は何があるのかな、と思っています。

この町は外国の方も多く住んでらっしゃいますから、そういう方々が、この町を探訪するときに、すでに住んでいる人の力をお借りしながら、なにを示せるか、を思っています。例えば、この町の生徒を見ていると、しつけも問題ないように見えますし、よいと思います。それらを定着させ、確実にしていくことが重要であると思います。思ったことをお話させていただきました。

池田町長）　ありがとうございます。では末續委員。

末續教育委員）　私も思ったことをお話したいと思います。今回、教育委員として初めて総合教

育会議に参加するところで、町の教育の基盤となる話に関わらせていただく機会をいただき、うれしく思います。現在、教育委員という役職を務める傍ら、陸上競技の現役選手としての活動、同時に選手活動しながら実業団の現役選手たちへの指導を行っています。私の競技歴は32年になり、始めた頃からはスポーツという点でも変化というか、競技を取り巻く環境というものも変化する中で、今回示していただいた方針というのも、PTAの方たちも感じていたとおり、時代に合わせて変えていかなければならない、要素もあると思っています。

それは、町の方が感じていることだけではなく、日本のトップを走っている人々でさえも感じています。その一方で、教育委員という、教育の一つの最前線に出していただく中で、私は人生経験はあまり長くありませんが、人生の濃さは非常に濃いほうだと思っておりますし、今までの違った生き方として示していきたい生き方です。その中で、この教育大綱を見せていただきながら、私にできることは、私は、世の中に「末續慎吾」という公人としての立場があり、どうしても教育というのは、実体のない美しいものであり、形があるものではありませんので、抽象的なものをいかに表現できるかということは、時間であったり歴史であったり、私で言うと具体的な生き方を示す、具体的な行動を示すというものであると思います。なので、今回教育に関わることが初めてで、教育実習を経てそのあと教育機関や教育委員会と、ものすごい振れ幅のある関わり方なので、勉強させていただくのと同時に、ここで決まっていく教育方針というものを自らの生き方の指針として、それを社会に発信、表現できる立場にもありますので、今日は決まっていく方針を自らの方針として変換できればと思っています。そういう気持ちを持ちながら、ありとあらゆる業界に関わらせていただいていますので、そういう方たちに私の立場を理解いただきながら、この教育方針というものが、社会にとってどういうものか、表現できればと思っています。自分ができることと考えることをお話しさせていただきました。以上です。

池田町長）　ありがとうございます。ではトーリー委員。

トーリー教育委員）　私も教育のプロではなく、あくまで保護者枠から入って、現在２期目になっていますので、素人然とした事しか言えませんが、基本方針の中で「美しい自然、由緒ある歴史文化を大切に」というところで、せっかく大磯にいて、歴史文化がある町で生まれ育って教育を受けていても、結局大人になって大磯町を離れてしまう、のでは残念だなと思います。若者がいかに大磯に残って、大磯の町のために尽くしてくれるか、そういう魅力のある町に持っていけるかという部分を入れ込めると、「地域の皆さんが」という言葉はあるのですが、そういう言葉を入れ込めればなお一層よいと考えました。

先ほど濱谷委員からも指摘があった「個別最適な」というところは、私も町長にお聞きしたい部分です。おそらく学力的なことのみならず、家庭の問題を持ったお子さんや不登校のことですとか、そういう部分を含めて個別対応というものが入ってくるのか、そのあたりどう考えてられるのかというところがあります。

「多様性」などのような言葉は時代に即していてよいと思いますし、多様性というのも難しいと思いますが、時代的に「循環型社会」とかの言葉が、昔と違って今という感じがしてよいと思います。

「学びの基盤となる資質と能力」とありますが、世界を見ても日本を見ても、物騒なことがあったり、いつどんなことがあってもおかしくない状態で、その中で生き抜く力、とっさの判断力が問われてくると思います。人のことを思いやるとともに、自分がどう自分の力で人生を切り開いていくのか、どこでどう判断するかという場面が時代的に出てくると思いますので、その辺のことを踏まえた分を、今日は抽象的ですが、具体的に入れていければと思います。

全体としてはスッキリしていてわかりやすくなったなと思います。実は、今日会議に来る前に今までの教育大綱に目を通してきたのですが、池田町長がどの程度踏襲されるのか、180度変えるのか、つかめなかったので、どう考えていいのかと思っていましたが、今日町長のめざすところを両方お聞きして、それからご判断していきたいなと思いながら、今日は出席しております。まとまりがありませんが、今日はお考えをしっかり聞いていきたいと思っていますのでよろしくお願いします。

池田町長）　ありがとうございました。それでは教育長、お願いします。

熊澤教育長）　私も仕事として､町長のお考えを十分に教育に生かしていきたいと思っています。ご存じのとおり、前回の教育大綱を平成30年11月に策定した時には私はいませんでしたので、ここには全く関わっていないのですが、私が一昨年教育長として来たときに、これを見せていただいていたので、もちろん知ってはいたのですが、前町長が「基本目標これでいいのかい？」とおっしゃっていました。気にしていらっしゃったと思うのです。

何年か前でしたら、これで通ったんだろうなという感じの書き方でしたので、前の教育長を中心にそういう考えも入れて作られたと思います。実際にこの大綱を元に、大綱の中には、基本理念と基本目標と基本方針が入っていて、これを元に町の教育を考えていくということは間違いない。特に学校教育の方は、それぞれを元に学校がそれぞれ目標を持っています。例えば、大磯小学校は「穏やかに自ら学び共に育つ」、こういう目標に向かってやるのは、この大綱を元に目標を考えています、という形になっていて、国府小学校は「知、徳、体の調和がとれ、心身共に健やかで、豊かな人間性を持つと共に、未来を創造していくたくましい子どもを育成する」、少し長いのですが具体をずっと書いてらっしゃる。大磯中学校は４文字熟語で「自立、健康」、これは全生徒が言えるように、ということで私がいるときに作らせていただきましたもので、昭和55年の話でそれから変わっていません。国府中学校は「きらきら夢、わくわく心、行動する私」、これは私が教頭のときに校長先生に「教育目標を変えたい」と言ったところ、「毎年変えなさい」と言われ、平成15年に作り、そこからずっと使ってもらっています。なぜこのような目標を持ったかというと、こういうことが足りないから目標にしていることで当時作成しています。これが実現できれば、

目標は変えてもいいかなというふうに思って作ったのですが、私の感じた中では、どちらかというと国府の子の方が、真面目でおとなしい子が多かったので「行動する私」という言葉をぜひ入れたいと思って、このように変えさせていただいた記憶があります。

実は幼稚園も作っており、２園共通で「のびのびと元気な子ども、思いやりのある心豊かな子ども、自分で考え判断して行動できる子ども」と具体で定めています。これからも、大綱が新しくなれば、検討して新しくする場合も出てくると思いますが、基本的には大綱を元にして、幼少中でそれぞれ目標を持っているのですが、年度末になって次のことを考えなければいけないので、ある程度スタートしている部分もあります。そういう中で今回町長からいただいたことは、方向性として、町長の政策において「一番にやることは教育である」と言っていただいたことは、非常にありがたいところで、それがはっきりと出ている基本理念ではないかと思っています。

町長はPTAの方からのご意見をいただいていますが、実際には、教育大綱は細かい詳細な政策を書くものではなく、理念的なことを挙げながら、目標と方針を作っていくものであると考えます。その後はそれぞれの場で、学校は学校で、生涯学習は生涯学習で、私もずっと生涯学習に携わってきた経験上、当時から「いつでもどこでもだれでも学べる」、私は「町を学校にしたい」と宣言して仕事をさせてもらっていた覚えがありますので、生涯学習は生涯学習で非常に重要なことですが、それは教育大綱が元なので、今回は特に町長がシフトしているところを中心に、教育大綱が出てきているのかなと考えます。

もちろん、何年か経過したらまた変更する、町長が同じ方でも、変えていくことはあり得ると思うので、例えば、具体は４年で変えましょうという任期と同じような形で考えていくのでしょうが、そういう点で、こういう方向でやってもらえればありがたいな、ということがちりばめられていると思います。先ほどの多様性という部分について、私は「多様性に寛容な町」にしたいと思っています。子ども、大人を含めて様々な方がいらっしゃいますので、多様性に寛容な町づくりをしたいと、学校もそうですし地域もそうです。「あれは許さない」とか「あれはだめだ」などよりも、どうしたらみんなでうまくいくかを考えていける町にしたいと思っており、その中で果たす役割は教育の力ではないかというふうに思っています。私も一昨年来たときにすぐに教育ビジョンを作らせていただきました。それは大綱を元にするのですが、その前に総合計画がありましたので、総合計画から大綱を持ってきて、最後にどういう子ども像を出すかというときに、小中の校長先生と相談した中で、「自分の夢や目標に向かって自ら努力する子ども、自分に自信を持ち他者を大切にする子ども、ふるさとを愛し誇りを持つ子ども」これが先ほどトーリー委員がおっしゃった大磯を大事にして大磯に住んで大磯のために頑張る、地方に行くとみんなそういう考えであり、そういう点ではそれに匹敵するものと思っています。

いろんな面でご意見をいただいて、最終的に町長のご判断いただいて、作っていただくのですけれども、先ほどの案に一つだけ、「個別最適」というところが引っかかっていて、私は、個別最適は大事で、学力をつけるということも含めて非常に大事であると思いますが、できれば大磯は「協働的な学び」をぜひ入れていただければありがたいなと思います。

主体的というのも大事なのですが、みんなでやるという、自分ひとりでやっていくのも大事ですが、チームとしてやるんだ、ということを、学校で言えばグループ学習のようなことにつながってくると思いますが、そういう点は、言葉として入れていただくことができればありがたいと思います。

池田町長）　ありがとうございました。これで、委員の皆さんの発言が一巡したところですが、追加での発言、ご質問等ある方はいらっしゃいますか。

濱谷教育長職務代理）　教育大綱とは違って、せっかく町長とお話できる機会ということで、「わくわくする町おおいそ」というところで、保護者、大磯に移住しようとする若い世代、ということになると、やはり教育だと思います。若い30代の方の教育の情報をもらってくるのはSNSであり、公教育と私教育との違いを若いお母さんがSNSを通じて比較をする、そしてお友達とカフェでお茶を飲みながら、スマートフォンを出して、SNSを出して、「こういう学校はこうだ」という情報を仕入れる、私学の学校のパンフレットでも、重点的にやっているところでは、QRコードがしっかりついていて、それをかざせば動画が配信されてきます。そうすると「こういう教育をしているんだ」ということがわかるわけです。

なぜ公教育はこの部分ができないのか、というところが普通の疑問として、若い方から出てくるというわけです。そこまで公教育はやらなくてもいい、と行政は考えるわけです。そうではなくて、「わくわくする町おおいそ」というふうにし、教育を１丁目１番地とするのであれば、少し逸脱しても、大磯の教育はこういう新しいことをやっている、というのを発信していく、教えていく必要があると常日頃考えています。なので、コミュニティ・スクール、そして小中一貫のような議論がされている、そういうことを明確に町民に具体的に教えていくべきだと考えます。ここが足りていないと考えています。

もう一つは、町長のお立場でどこかで発言していただきたいのですが、現在、教員のなり手が不足しています。大磯町も困っていますし、中教育事務所も困っていますし、私学も困っています。どうやって教員希望の若者を増やすのか。一つのキーワードとして、勤務内容がブラックという印象が先行していて、どうやって改善するのか、それは大磯が発信してもよいのではないかと考えます。法的にどうかはわかりませんが、教育免許ではなく、「特別免許」というものが存在していて、その特別免許を申請して教えてもらう、この動きは今私学を中心として、埼玉県、神奈川県も来年から始めるのですが、大学３年生を早めに囲い込んで、教員になりたければ、インターンで１年間使って、その実績を県教育委員会に申請をして、届け出て、免許を取っていくという動きがあります。

これは、文系ではなく主に理系の先生が対象で、現在、理系の若者が教職免許を取る時間がなく、どうやって理系の先生を集めてくるかが課題になっています。大磯が先行事例のような形になって、制度、法律を研究しながら、実施してほしいと考えています。そうすれば、若い世代が「大磯は教育の先進的な取組みをしている」と未来を生きる子どもたちのためには、従来の枠組みを法的なものを研究しながら、道を探しながら作っていく等、

ぜひ町長に研究をしていただけたら、大磯の大きな魅力になると思います。

教育委員になってから、今まであった「知力、体力、共感力」の３力を「魅力」としており、魅力を持つ子どもになってもらえれば、「まなび、からだ、こころ」として作っていくのであれば、これが大磯の小中学校を出た子どもたちの魅力なんだ、ということをベースとして、先生とSNSの話をして、もっと大磯の教育を動画で発信できればと考えています。

動画の素材は多く持っていると思うので、教育を１丁目１番地とされるのであれば、当然予算もつくものと思うので、そういうところに予算を充当すれば、保護者からも「大磯町は変わったな」と思われるでしょうし、子どもたちも喜ぶと思います。「僕たちが学んでいる大磯の学校、教育はこのように発信してもらっているんだ」となると思います。そういう子どもたちが高等教育に進むという展開が生まれると思うので、高等学校で探求学習に、大学までつながっていくと思います。

曽田教育委員）　町長にお示しいただいた「地球的規模」という部分について、地球的規模で考えますと、「2025年問題」と「2050年問題」があり、まだ論議されていませんが、「2025年問題」は団塊の世代が全員高齢化し、「2050年問題」は、日本の人口が今の出生率を見るとどっと減ると予想されていて、そういった問題を国ももちろんですが、町も早めに手を打って国に先駆けてそういったものを頭に入れていけば方針が少し変わってくるのではないかと考えます。

もう一つは、末續委員の問題にも入ってくると思うのですが、今私たちは、健康な体と豊かな心を持つためにはどうしたらよいかということで、良い睡眠をとって運動をいっぱいして、食事をする、というのをして、生活習慣をしっかりとさせれば、うまくいくだろうと思っていますので、この辺に町としてもそういう力を込めて、発信するのも悪くないなというふうに思っています。

トーリー教育委員）　若者を戻すという観点から、自分の町に誇りを持つこと、「自分の育った町はやはりいいところなんだ」と誇りを持てる教育をしていく必要があると思います。今、大磯小学校と国府小学校はタイムカプセルを開ける計画があるということで、昔入っていたものを見ると「時代ってすごく変わるんだな」と実感します。今なんでもICTになっていて、それは大事だと思いますが、一辺倒になると人間の根幹となる心が壊れてしまうと思い、ICTと対面授業をうまい形で組みこんで、「大磯らしい子育て」を形で見えるように持っていければよいと思います。

教育は人づくりの根幹であり、教育が人を作るというのは本当だなと思い、学力もそうであるし心もそうであり、それらがきっちりできていないといけないと思います。今の子どもたちが大磯の将来を、日本を背負っていくわけですから、たっぷりと予算を投入いただき、教育は１丁目１番地という町長には、頑張っていただきたいと思います。

池田町長）　質問についてのお答えですが、資質や能力というものは、似たような概念で「人間に元から備わっているもの」というふうに考えていますが、資質というものはマインド的なもので、自己肯定感を中心にして、「負けない心」、「前向きに夢を見る心」、前向きなマインドを「資質」として書いています。能力の方は、例えば走るのが速い、算数が得意、ヴァイオリンが上手といった才能に近いものということをイメージして考えています。

そうしたマインド的なもの、才能的なものを見出して、地域、学校、保護者が協力して伸ばしていけるようにしていきたいと考え書いています。「個別最適な」というところは、例えば不登校の方もいらっしゃいますし、障がいをお持ちの方もいらっしゃいますし、芸術が得意な方もいらっしゃいますし、野球がうまい子もいると思うのですが、全員同じ対応ではなく、それぞれのお子さんに応じて長所を伸ばしていける、というところで自己肯定感を持って成長していくということで、お子さんに合った、基本方針のところで「誰一人取り残されることがないように」というところとリンクする概念ですが、SDGsで謳われている精神と、具体的には「個別最適な学び」という形で、書いています。

また、教育長から指摘のあった「協働的な学び」について、その視点を忘れていたと思っていて、大事なことだと考えており、チームワークでみんなで助けあって協働的な学びをしていくというのを取り入れていくというのは大事なことだと思います。そういう中で、ICTだけではなく、対面で顔を合わせながら、手をつなぎながら、というところが大事だと思っており、その部分は提案もありましたので、ぜひ入れていきたいと思います。

予算については、次年度予算は子ども、教育関係について盛り込んでおり、かなり膨らましてあります。来年度はハード的な部分は間に合っていませんが、将来的には、校舎の建替あるいはICTの環境整備とか含めて予算化して、大磯の居心地の良い環境の中で学んでいただきたいと思いますので、頑張って予算立てしたいと思います。

せっかく町としてよいものを作っていくのなら発信をしなさいという件については、私も同感であり、SNSをはじめ、発信力というものが日本だけでなく世界中で重要なものになっていて、適切ではないかと思いますが戦争も発信力でやっていくというふうにテレビで放映しています。やはり、教育をよく発信していくというのはおっしゃる通りだと思いますので、まず町役場全体の発信力を高めていくということで、町ホームページの改善や、私がビデオに出て町の良いところを訴えて行ったりということをやろうと思っているのですが、だんだんと学校も教育の良いところを訴えるビデオも作っていきたいなと思っていますので、実践していきたいと考えています。

特別免許について、先生が不足しているという話は、県議会議員時代にも文教委員会に２年ほどいた頃があり、そのような話も頻繁に出ていました。大磯に何ができるかということですが、先日東海大学にお邪魔して、学長さんと面会した際に、過去の経緯は置いておいて、これからはよく協力し合いましょうという話をしました。２月か３月ごろになるかと思いますが、東海大学と連携協定を結んでいて、協力し合える関係を改めて作ろうという話になっています。特に教育については、東海大学も新しいことをやろうとしていて、児童教育学部を設立して、幼稚園の先生と保育園の先生、小学校の先生を育てます、とい

うことです。定員がそれぞれ50人で、今１年生が150人いるという状況で、あと３年すると150人の卒業生が出てくる、ということで、先生たちを育てる過程や、その先を含めて、大磯町と協力をしていきたいという話がありましたので、年が明けて役場の職員たちを連れて、児童教育学部にお邪魔して、見学をしたり、学部長さんと話をしたりさせていただきました。

関係が具体化していく中で、まずは児童教育学部の中で学んでいる生徒さんの３年生、４年生での実習やインターンについて、ぜひ大磯で実施していただいて、最先端の児童教育学部の成果をぜひ大磯でいろいろと実践していただき、私たちも現場の考え方も伝えて、学問と現場の私たちと協力しながら良い先生を育てていく、できればそういう人が大磯町にやって来てもらえればという形を作っていきたいと思っています。特別免許という形が取れるかについては、次のレベルの話になると思いますが、そうした形で大学、養成機関との連携をしていくということをまさに今、やっていこうとしているところです。

３月頃に改めて協定を結んで、実際に３月末に幼稚園にまず大学の先生来てもらい、「小学校に上がったら、こんなふうに皆さんお子さんについて注意をしていきましょう」というような講義や、小学校にも大学の先生に来てもらって、順に回ってもらって「最近の児童教育学はこのようなことをやっている」ということを現場の先生や保護者、地域の方向けに最先端の児童教育学についての講義の機会を設けていく予定です。今年から新しい取組みをしていきたいと思っていますので、それらを踏まえ、よく様子を見てご指導いただければと思っています。

そういう流れの中で、今日出させていただいた教育大綱の素案について考えていました。まずは一番の根底には大磯町の皆さんが子育てや教育で町民の皆さんが楽しい、みんなが楽しんでいる大磯を作り、それを発信して、外の人たちが大磯に住んでみたいと思えるような町にしたいと考えています。そのような精神がこの教育大綱の素案に落とし込めればと考え、先生方や関係者の皆さんに広げていって、みんなで楽しい子育てができる町としてみんなで取り組まないといけないので、皆さんにわかりやすく私の考えを伝えて、分かち合えればと思っています。

この後は懇談のような形でも構いませんので、ご意見等いただければと思います。

今までは、観光で一度町に来てもらって、見ていただき、気に入ってきてもらうという形で進めていましたが、私が町長になったからには、町に住もうと思ったときに大磯ってどんな町なの、という話に必ずなり、子育て世代を中心に若い世代の関心は、子育てに向いていると思います。昔は旦那さんが転勤すると家族みんなでついていきましたが、今は子どもの教育があるからお父さんだけで行くという場合が多いので、子育てに対する熱意や思いを大切にするとしたら、子育てや教育も周りの関連してくる環境整備で人を呼び込んでいくというと、少し安っぽくなってしまいますが、委員がおっしゃるようにこれからどんどん人口減少が進んでいくことを考えて、この大磯という町を維持していくということを考えたら、やはり若い人に来てもらわなければならないわけで、若い人の関心事は、子育てはどうしようかというポイントに焦点が置かれつつあるということで、皆さんに選

んでもらえる大磯の子育て、教育というものをぜひ作っていきたいし、せっかくご指摘がありましたので、それをどんどん発信していきたいと考えています。

また、指導者について、部活動の指導者がいないということで話があり、末續委員もご心配いただいていると思います。現在検討段階にありますが、「大磯式の部活動」ということで、教育委員会の方で検討いただいています。完全に地域に任せてしまうのではなく、学校と地域が協力し合って部活動を持続可能なものにしていくことが必要だということで、土日に教えていただける方を地域から募って少しのお手当を出すというモデル事業を県や国が今年度実施して、町内でも手を挙げていただいて事業が進んできたということでその振り返りを含めて、できれば来年度の早いうちに土日に教えていただく方を募って、土日に教えている方が別に学校の先生でもよくて、土日に出てくれる方にはしっかりとお手当をつけましょうという制度を作りたいと思っています。

新年度予算には間に合わなかったのですが、個人的にはできるだけ早く、そのような制度を作りたいと思っています。部活といっても体育だけではなく、音楽もありますので、「部活をするなら大磯」ということもやってみたいと考えています。これも教育の中でとても大きな位置を占めていて、部活をやりたい先生が大磯に来てくれる、部活は先生が大切でよい指導者がいれば、そこに人が集まるようになり、よい循環になり、それをまた発信していくとよいと考えています。

トーリー教育委員）　例えばですが、若い方で大磯に観光で夏は特にですが、ロングビーチや海があるので町に来たいという声を息子の友達から聞いているのですが、安く泊まれるところがない、それがあると随分違うのにという話を聞きます。プリンスホテルでは少し高いので、安く泊まれる場所が、それこそ古民家を民宿的なところにするとか、そこで雇用が生まれるかもしれないので、そういうことができないかと思っています。

池田町長）　コロナ禍の前にインバウンド対策として民泊という制度を国が作ったのですが、このコロナ禍で下火になってしまいました。これから新型コロナウイルス感染症が第５類に分類されるようになると、人の動きが多くなると思いますので、そういう中で民泊をやっていただくのもよいかと思います。現在町内の旅館であった大内館が休業状態にあり、大内館を営業できる事業者を私個人的には探していきたいと思っているのですが、町内で宿泊ができるというのが大変重要なことであるので、ぜひ取り組んでいきたいと考えています。

多少話が脱線しますが、今プリンスホテルの宿泊券が、ふるさと納税の返礼としてとても人気で、泊まってみたいという方が多いのであろうと思っていて、企業版ふるさと納税というものもありますので、うまくやり繰りしていって、例えば大磯の小中学校を見学に来てくれた方には、割引券を出すとか、そういうのも面白いと思います。

過疎の危機がある県に行くとお試し移住というものを実施している場所もあり、ほとんど無料で泊まれて、保育園に行ってみたり小中学校に行ってみたりするのを１週間で体験

できる、というところもありますので、やっていければと思っています。

濱谷教育長職務代理）　現在、国を中心として議論されている給特法「公立の義務教育諸学校等の教育職員の給与等に関する特別措置法」について、町長はどのようにお考えかお教えいただきたいです。

池田町長）　県議会議員時代にその内容について触れており、今のところ、４パーセントの時間外手当が支給されるだけで、何時間残業してもなにもないというのは労働基準法の世界とあまりにかけ離れていることを公務員自らが実践している状況で、私は労働基準法的な基準を先生方に当てはめてもらって、いくら働き方改革だと言っても基準がない中では早く帰ってと言ってもだめですし、働くのであれば残業代が出ますよ、と。今企業は残業代が出ないように一生懸命仕事の効率化を図って早く帰れるようにしているわけで、行政でも雇う側にとっても、残業代が発生することは業務を効率化する視点を持つということで大変重要であると思うので、機会があれば、町長になったので発信する立場として適切でないかもしれませんが、給特法の改正で、先生方の時間管理をやっていかねばならないことを発信していかないと、と考えています。

まとめて時間外手当を８パーセントとするよりも、残業代をしっかり払うことによって、先生方は残業が報われ、雇う側からしたら、残業しないようにするのは学校の事務をどのように効率化していけばよいのかという発想が出てくると思うので、大事な視点であると思います。

では、時間も迫ってまいりましたので、最後に一言ある方はお願いします。

熊澤教育長）　幅広くお話をいただきまして、町政にも関わる内容もありましたので、それも含め検討いただけると思いますし、また、今回の大綱が最終的に形として決定してくると思うのですが、それを元に私たちの方で、教育ビジョンをこれから修正する等していくのですが、最初に私が教育ビジョンを作った中では、町長がおっしゃる通り、「大磯でしかできない」、「大磯だからこそできる」、そういう教育をしていきたい。そして、最終的に町長がおっしゃる人口減少の歯止めということで、「教育で人の集まるまちづくり」に教育委員会も貢献したいと思っていますので、今回小中の給食の交流なんかもそのうちの一つなのですが、他所ではなかなかできない取組みと思っていますので、ぜひそういうことを具体的に取り組んでまいりたいと思っていますので、よろしくお願いします。

池田町長）　今回いただいたご意見を踏まえ、中身を改め、教育大綱素案について検討させていただき、改定案を事務局で用意して、教育委員の皆さんと文書でやり取りしていただき、次の総合教育会議でまとめ上げていくという段取りでやらせていただきたいと思います。それでは、これで本日の協議事項でありました「大磯町教育大綱の改正について」は終了させていただきたいと思います。

政策課長）　それでは、「４．その他」に移らせていただきます。委員の皆さんから何かありますでしょうか。ないようでしたら、事務局から１点、ご連絡させていただきます。

政策係長）　それでは、今後の予定をお知らせします。

第３回の会議は、３月中旬の開催を予定しています。日程等につきましては、後日調整させていただきます。

以上です。

政策課長）　それでは、これをもちまして令和４年度第２回大磯町総合教育会議を終了いたします。長時間にわたり、ご協力いただきまして誠にありがとうございました。

（以上）